

東環協ニュース

発行●東京都環境計量協議会

〒110-0016 東京都台東区台東 1 - 14 - 11
ヒロエンジニアリング(株)内
TEL (03) 5812-4111
FAX (03) 3833-6674
MAIL toukankyo@car.ocn.ne.jp
URL <http://www.toukankyo.org>

- 平賀新会長挨拶
- 第 45 回通常総会報告
 - ・ 第 45 回通常総会議事録
 - ・ 総会資料
- 第 45 回通常総会後の懇親会報告
- 2021 年度 技術研修会報告
- 2021 年度 環境計量証明事業団体合同研修会報告
- 災害時における石綿モニタリング調査
- 佐藤前会長退任挨拶
- 新役員挨拶
- 関係機関・団体の動き
 - ・ 首都圏環境計量協議会連絡会
 - ・ (一社)神奈川県環境計量協議会
 - ・ (一社)埼玉県環境計量協議会
 - ・ 千葉県環境計量協会
 - ・ (一社)日本環境測定分析協会
- 東環協からのお知らせ
 - ・ 2022 年度これからの主要行事予定
 - ・ 事務局からのお知らせ

平賀新会長挨拶



<平賀新会長>

この度、第 45 回東京都環境計量協議会通常総会の総意を得て、会長の大役を仰せつかることとなりました株式会社環境管理センター平賀でございます。前任の佐藤会長が 8 年にわたり、ここまで成長させてきた当協議会をお引き受けするのは身の引きしまる思いがいたします。

大いなる夢を持って(一社)日本環境測定分析協会と手と手を取り合い、当協議会の発展に努めてまいりたいと考えております。

私は今後、当協議会を更なる希望と夢に満ちた魅力及びブランド力ある協議会にすべく、内外へのアピールを強化してまいります。会員の中には大きな強みと特徴を持った皆様が沢山いらっしゃいます。これは、当協議会の大きな魅力とブランド力と捉えています。東京都を筆頭に各自治体のあらゆる部署へアプローチをすることにより、当協議会を大いに知っていただくことで生まれる新しい可能性を模索して行きたいと考えております。

環境計量に係る領域の今までの常識にとらわれず、想像をより膨らませ何をすべきかを明確にし、皆様の意見を取り入れながら当協議会の発展とブランド力の確立を第一と考え私なりのやり方で進めてまいります。当協議会を大きなブランドとして確立するためには会員の皆様の更なる協力が必要不可欠と考えております。

私たちの無限大の力を集結し、東京都全体を夢と希望にあふれた未来に変えられる様な大きな力となるように、当協議会を発展させてまいります。

会員の皆様、どうぞ宜しくお願い致します。



第 45 回通常総会報告

2022 年 5 月 11 日(水)、第 45 回通常総会がアルカディア市ヶ谷 6 階「伊吹」で開催されました。正会員 23 社のご出席をいただき、22 社の委任状と合わせ定数を充足していることから、定刻の 16 時 00 分、竹田副会長が総会の成立を宣言しました。会則第 22 条に従い、議長には佐藤会長が選出され、五十嵐副会長により昨年度の事業報告並びに収支決算報告、今年度の事業計画・予算案の説明が行われました。今年は役員の改選期にあたり、第 5 号議案で新役員 3 名を含む役員 13 名の承認が行われました。総会における各議案の審議は滞りなく進行し、16 時 50 分に無事終了いたしました。詳細は議事録及び総会資料をご覧ください。

佐藤会長の挨拶



<佐藤会長挨拶>

只今、ご紹介に預かりました会長の佐藤です。総会の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。本日はご多用の中、多くの正会員や賛助会員の方、また、ご来賓といたしまして一般社団法人日本環境測定分析協会から会長の上東様、関東支部長の津上様に、ご出席いただき誠に有難うございます。

新型コロナについては 2020 年 4 月に緊急事態宣言が出され、未だに終息が見えないところですが、その中でも昨年夏には東京、今年 2 月には中国北京でそれぞれオリンピック、パラリンピックが開催されました。2 月にはロシアによるウクライナへの一方的な軍事侵攻があり、一日も早い停戦協定の締結が望まれるところです。

当協議会の活動として昨年は WEB を利用した新任者教育セミナー、研修見学会、環境測定技術事例発表会、技術研修会を開催することができ、一定の成果を得ることができました。当執行部としては引き続き、コロナ禍ではありますが若手技術者の育成を重視した事業展開を図ってまいりますので宜しくお願いいたします。

これより第 45 回の通常総会におきまして、2021 年度の事業報告と収支決算報告、及び 2022 年度の事業計画案と収支予算案、並びに今年度は 2 年に一度の役員改選期にあたりますので新役員選任についてご審議をいただきます。皆様の活発なご意見、ご討議をお願いしたいと思います。簡単ですが、会長のご挨拶とさせていただきます。



<通常総会会場>



<司会を行う竹田副会長>



<説明を行う五十嵐副会長>



<来賓の皆様>



<通常総会風景Ⅰ>



<通常総会風景Ⅱ>



東京都環境計量協議会
2022年度（第45回）通常総会
議 事 録

日 時 : 2022年5月11日（水） 16:00～16:50
場 所 : アルカディア市ヶ谷 6階「伊吹の間」（東京都千代田区九段北4-2-25）
出席者 : 45 社（うち、総会当日までに到着分の委任状 22 社）

竹田副会長が16時00分、正会員総数62社中45社の出席があり、会則第19条により総会が成立することを宣言した。

総会を開催するに当たり、最初に佐藤会長が挨拶を行った。

会則第22条に従い、会長が議長となったが、議事に入る前に会長は議事録署名人として、（株）エオネックス 八島 良介氏と（株）環境総合リサーチ 林 敏夫氏を指名し、両氏はこれを承諾した。

議 事

1. 第1号議案「2021年度事業報告承認の件」及び第2号議案「2021年度収支決算報告承認の件」について

五十嵐副会長が、配布された総会資料に基づき両議案内容を説明した。引き続き、近野監事が2021年度決算書について詳細に監査した結果、収支状況を正しく示していると報告した。第1号議案及び第2号議案について一括審議した結果、異議なく承認された。

2. 第3号議案「2022年度事業計画（案）審議の件」及び第4号議案「2022年度収支予算（案）審議の件」について

五十嵐副会長が、配布された総会資料に基づき両議案内容を説明した後、第3号議案及び第4号議案について一括審議した結果、異議なく承認された。

3. 第5号議案「新役員選任の件」について

本年度は役員改選の年であり、五十嵐副会長より立候補者名簿に関する説明があった。その後、第5号議案について審議した結果、異議無く承認された。

以上で第45回通常総会の議事が終了し、16時50分、竹田副会長の閉会の言葉で閉会した。

以上

議 長	佐 藤 隆	
議事録署名人	林 敏 夫	
議事録署名人	八 島 良 介	

2022 年 度

第 4 5 回
総 会 資 料

東 京 都 環 境 計 量 協 議 会

議 案

- | | |
|-----------|-----------------------------------|
| 第 1 号 議 案 | 2 0 2 1 年度 事業報告承認の件 |
| 第 2 号 議 案 | 2 0 2 1 年度 収支決算報告承認の件
(監査結果報告) |
| 第 3 号 議 案 | 2 0 2 2 年度 事業計画（案）審議の件 |
| 第 4 号 議 案 | 2 0 2 2 年度 収支予算（案）審議の件 |
| 第 5 号 議 案 | 役員選任の件 |

はじめに

春暖の候、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素より当協議会の事業活動につきまして、多大なご理解とご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、国内では新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策として 2020 年 4 月 7 日に初めて緊急事態宣言が発令され、それから 2 年が経過しましたが未だに新型コロナウイルスは変異を繰り返しながら猛威を振るっております。このような状況の中でも昨年は 1 年遅れで 2020 東京オリンピック・パラリンピックが開催され無事に終了した他、本年 2 月からは中国において冬季オリンピック・パラリンピックが開催されました。一方、そのような平和の祭典が開かれている中、2 月 24 日にはロシアがウクライナに一方的な軍事侵攻を始めた事で世界中が驚愕しました。直ちに、米国、EU 連合、我が国を含む西側諸国は、ロシアに対して SWIFT からの排除を始めとした経済制裁を開始しましたが、互いに痛みを伴う点も多く世界経済は混迷を来しております。特に、各種の原材料の仕入れ値が高騰し始めた事で国内においてもあらゆる製品の値上げが生じています。一日も早い COVID-19 の撲滅あるいは特効薬の完成と、ロシアとウクライナの間で停戦協定が結ばれウクライナに平和が戻り、世界経済が沈静化する事を熱望しています。

当協議会における今年度の事業活動は、コロナ禍でありながらも教育事業の重要性に視点を置いて、後述の事業活動報告にありますように新任者教育セミナー、研修見学会、環境測定技術事例発表会ならびに技術研修会において WEB を活用した事業展開を図りました。いずれも初めての企画、試みであったため各担当理事の方々には多大なお骨折りを頂きましたが、その甲斐もあり一定の評価を頂戴できたものと自負しております。当執行部と致しましては、昨年度の経験を活かして引き続きコロナ禍においても益々連携を深めて若手技術者の育成事業に注力して参りますので、会員皆様のご協力をお願い申し上げます。

[第1号議案] 2021年度 事業報告承認の件

2021年度 事業報告

2022年3月31日現在の会員数及び役員は次のとおりです。

(会員数)

正会員	61社（退会1社〔会費未納による〕）
賛助会員	21社（入会1社、退会2社）
合計	82社

(役員)

会長1名、副会長2名、理事8名、監事2名

1. 会議の開催

(1) 総会－2021年度（第44回）通常総会

第44回通常総会は、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染予防のため書面による議決権行使方式での開催とし、2021年5月24日15時よりアルカディア市ヶ谷5階「赤城」にて役員の出席の下、議決権行使書（委任状を含む）の集計作業を行い、全ての議案が原案どおり承認可決されたことを確認しました。

日時：2021年5月24日（月）15:00～17:00

場所：アルカディア市ヶ谷「赤城」

出席者：全役員

議決権行使書：正会員62社のうち45社から議決権の行使書（委任状11社を含む）の提出がありました。

(2) 理事会

協議会運営のため、全役員による理事会（リモート参加を含む）を開催しました。

理事会：5回開催（2021年5月24日、7月8日、10月1日、12月17日、
2022年2月22日）

(3) 委員会会議

技術委員会、業務委員会の各委員会について、担当理事及び委員による会議を必要に応じて開催しました。

2. 事業活動

当協議会の目的を達成するため、セミナー、発表会、研修会などの各種事業を企画、開催しました。

(1) 技術関係

① 新任者教育セミナー

今年度の『新任者教育セミナー』ですが、依然として変異型コロナウイルスが猛威を振るって収束の兆しが見えないことから、昨年と同様にオンライン形式で開催しました。今回は、1都3県で113名の応募があり、東環協からは6社31名と多くの方にご参加いただきました。また、昨年度セミナー終了後の参加者へのアンケートで「オンライン形式での1日セミナーでは内容が多すぎる！」という意見を頂戴したことから、今回はプログラムを2日間に分けて開催しました。

開催日時：2021年10月21日（木）、22日（金） 13：00～16：50

開催方法：リモート開催（YouTube ライブ配信、一部 ZOOM 会議方式）

配信会場：（一社）日本環境測定分析協会 5F 研修室

参加者：113名（うち、東環協：6社31名）

【講義1日目】

講義1（13:45～15:00）

（テーマ）環境計量の仕事とは

（講師）（一社）日本環境測定分析協会 関東支部長 津上 昌平 氏

（概要）環境問題の歴史にはじまり、環境関連法規制の概要、計量法における事業登録制度や環境計量士について、計量証明書の電子発行、環境関連資格といった多岐に亘る内容でした。

講義 2 (15:15～16:30)

(テーマ) 労働安全衛生

(講 師) イー・サポート高円寺 菅原 昇 氏

(概 要) 労働災害の発生状況、測定業務における安全管理上も事前調査は重要であること、試験室での安全衛生管理上の注意点などについてお話がありました。

【2 日目】

講義 3 (13:45～16:30)

(テーマ) 精度良い測定のために (1) サンプルングの基礎

(2) 化学分析、機器分析

(3) 精度管理

(講 師) ㈱佐々木環境技術事務所 代表取締役 佐々木 克典 氏

(概 要) サンプルングの重要性、精度管理に必要なこと、トレーサビリティのとれた標準物質を使用することの大切さ、試験結果の管理の重要性などについての解説がありました。

【受講者アンケート】

セミナー終了後の Web アンケートでは、74 名の受講者の皆様から回答をいただきました。参加者の年齢は「20 歳未満」または「20 代」が 78%超を占め、担当業務では「水質、土壌関係の分析」が最も多い結果となりました。また、講義内容についての設問では、どの講義も 80%以上の参加者が「大変理解できた」または「理解できた」と回答していました。

② 研修見学会

新型コロナウイルスの影響により前年度は『研修見学会』の開催を断念しましたが、今年度はオンラインを活用することで開催いたしました。今回はオンラインであることを活用し、第 1 部は「沖縄から自然環境を学ぶ！サンゴの不思議」というテーマとしました。また、第 2 部では近年注目されている「企業の SDGs への取り組みについて」というテーマで開催しました。今回も 1 都 3 県の首都圏環協連の合同開催であったので、オンライン視聴では 41 回線 41 名の方が参加され、会場運営スタッフ 7 名と合わせ総勢 48 名の参加となりました。

なお、東環協からは 13 社 20 名と首都圏環協連の中では最も多くの皆様にご参加いただきました。

開催日時：2021 年 9 月 29 日（水） 13:30～17:00

開催方法：リモート開催（YouTube ライブ配信、一部 ZOOM 会議方式）

配信会場：（一社）日本環境測定分析協会本部

内 容：

第 1 部「沖縄から自然環境を学ぶ！サンゴの不思議」

沖縄ダイビングサービス Lagoon 山本 浩章 氏[(株)HIS 提供]

第 2 部「企業の SDGs への取り組みについて」

ヒューマン・アセット・コンサルティング(株) 廣橋 潔則 氏

参 加 者：48 名（うち、東環協：13 社 20 名）

第 1 部では沖縄県恩納村で長年ダイビングサービスに勤務し、目の前の海を見続けてきた山本氏から、気候変動による水温上昇やオニヒトデの異常繁殖のため危機に直面しているサンゴの状況について、撮りためた映像を見ながらお話いただきました。一度白化してしまったサンゴは元の状態に戻りにくい事、また新たなサンゴの再生のためには長い時間が必要である事、さらにサンゴは多くの海洋生物の生育に関与している事を知りました。サンゴが広がる美しい海を海洋汚染から守るためには、日頃から小さな一歩として私達がどういう取り組みをしなくてはならないかを学ぶ機会となりました。このツアーの参加者には後日、恩納村の海岸に打ち寄せられたマイクロプラスチックの標本や恩納村の美しい海中写真が山本氏より提供されました。

③ 環境測定技術事例発表会

昨年度は新型コロナウイルス感染症の拡大を受け中止となった「環境測定技術事例発表会」ですが、今年度は ZOOM ミーティングを活用したオンライン形式により開催いたしました。当日は、発表者、協賛企業及び主催者のみがホスト会場であるアルカディア市ヶ谷に集合し、来賓、一部の発表者、参加者とはオンラインで繋いでの進行となりました。来賓には大阪環境測定分析事業者協会から杉野会長にご参加いただき祝辞を頂戴しました。また、（一社）日本環境測定分析協会の清水重雄副会長には特別発表として『「日環協について」～組織

と事業内容のご紹介～」というテーマでご講演賜りました。なお、今回の参加者は、会員 25 社 47 名、協賛企業 4 社 5 名、発表者・来賓を含め総数 59 名でした。

開催日時：2021 年 11 月 11 日（木） 13：20～16：30

開催方法：リモート開催

配信会場：アルカディア市ヶ谷「大雪」

参加者：59 名（来賓 1 名、発表者 6 名、参加者 25 社 47 名、協賛企業 4 社 5 名）

④ 技術研修会

本年度の『技術研修会』は、会場参加とリモート参加を併用したハイブリッド方式を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の再拡大を受け、急遽リモートのみでの開催としました。

開催日時：2022 年 1 月 20 日（木） 15：30～16：45

開催方法：リモート開催（ZOOM 会議方式）

配信会場：アルカディア市ヶ谷 6 階 「阿蘇」

テーマ：これからマイクロプラスチック分析を始める方へ

～マイクロプラスチック分析はここまで簡単になった！～

講師：千葉工業大学 創造工学部都市環境工学科

准教授 亀田 豊 氏

概要：マイクロプラスチックの調査・研究における問題点に始まり、試料採取、前処理、定量方法、最新技術を用いた研究結果など実務に即したお話が聞けました。

参加者：52 名（24 社 50 名、来賓 2 名）

⑤ 技術交流

例年、大阪環境測定分析事業者協会（大環協）が主催する「環境測定技術事例発表会」に参加し技術交流を深めていましたが、主催者判断により年度内の開催は中止となりました。

⑥ 大環協主催による精度管理共同実験

精度向上を目的に、「精度管理共同実験」（主催:大環協）への参加を当協議会会員にも呼び掛けました。東環協からの参加会員数は6社でした。

(2) 業務関係

① 会員名簿

2021年8月に会員名簿を発行、会員及び都内自治体に配布しました。

② 新春賀詞交歓会

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、本年度は開催中止といたしました。

③ 首都圏環協連関連

各県単の活動状況を報告し合い、当業界を取り巻く諸問題について意見交換を行いました。

1) 首都圏環協連委員会：3回開催

(2021年6月16日、8月5日、12月15日)

2) 2021年度 環境計量証明事業団体合同研修会

開催日：2022年2月17日（木）（リモート併用で開催）

テーマ：(1) 2021年度 県単における事業活動状況

(2) 自治体との災害時における協定の動向

(3) 会員企業のBCP活動に関する取り組み

(4) 会員企業のSDGsに関する取り組み

参加団体：15団体〔首都圏環協連（1都3県）、群馬県、新潟県、長野県、山梨県、北海道、愛知県、大阪府、広島県、福岡県、横浜市、堺市〕

④ 親睦ゴルフ大会

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、本年度は開催中止としました。

(3) 広報関係

① 東環協ニュース

東環協ニュースを3回発行しました。

第176号：2021年 4月 30日

第177号：2021年 8月 31日

第178号：2021年 12月 28日

② ホームページ

ホームページでは、各種行事のご案内や東環協ニュースを掲載しています。
また、環境省、経済産業省を始め、関係省庁等の情報を取りまとめ、毎月1回の更新を実施しました。

③ 都民計量のひろば（東京都計量検定所関連）

東京都では、都民の方々に楽しみながら計量制度への理解を深めてもらうことを目的として、毎年11月1日の計量記念日に「都民計量のひろば」をイベント形式で開催しています。

今年度も昨年と同様に新型コロナウイルス感染拡大防止のため、特設Webページ「Web版 都民計量のひろば 2021」を開設して実施しました。

開催期間：2021年10月16日（土）～12月15日（水）

テーマ：メインテーマ「くらしと計量」

サブテーマ「学ぼう！くらしの中のいろんな計量」

開催場所：（一社）東京都計量協会のホームページ内特設サイト

主催：都民計量のひろば実行委員会〔構成団体 東京都計量検定所、
（一社）東京都計量協会、東京都環境計量協議会等、計18団体〕

昨年度は1ヶ月間の開催でしたが、今年度は期間を2ヶ月間に延長したため、より多くの方々にアクセスしていただきました。また、今年度は東環協のページにおいてもコンテンツを追加して、マイクロプラスチックの環境影響について紹介させていただきました。

④ 東環協メール情報サービス

電子メールによる情報提供を 14 件（No.326～No.339）実施しました。

（４）官公庁その他に対する協力

「災害時における石綿モニタリング調査協定」研修会の実施

東京都環境計量協議会では、都民の安全・安心に寄与する基礎データ収集のため、大規模災害時のアスベスト飛散状況を把握する環境モニタリングの協定を締結しております。今年度は、協定の一環として Web 配信による「災害時アスベストばく露・飛散防止に係る研修」を実施しました。

開催日時：2021 年 12 月 7 日（火） 13：30～16：30

研修内容：

- 1) 災害時における石綿飛散防止に係る取り扱いマニュアル改訂版（平成 29 年 9 月環境省 水・大気環境局大気環境課）を利用した「災害時アスベスト対策の概要」の説明 東京都環境局
- 2) 「アスベスト露出状況調査について」の説明
（一社）建築物石綿含有建材調査者協会 副代表理事 外山尚紀 氏
- 3) 「アスベスト露出状況調査について」の説明
（株）環境管理センター 取締役アスベスト対策事業部長 豊口敏之 氏

参 加 者：東京都区市職員 67 名（32 自治体、各区市 1～2 名の参加）、
東京都環境計量協議会 21 名、（一社）建築物石綿含有建材調査者
協会 24 名、計 112 名

以 上

[第 2 号議案] 2021 年度 収支決算報告承認の件

本議案については、当協議会のネット規定上、公開しないこととします



監査報告書

東京都環境計量協議会
会 長 佐藤 隆 殿

私たちは、2021年4月1日から2022年3月31日までの事業年度における会計書類及び事業活動報告について詳細に監査した結果、適正であることを認めます。

2022年4月14日

東京都環境計量協議会

監事： 近野 良哉 

監事： 小柳 伸孝 

2022年度 事業計画（案）

1. 会議の開催

（1）総 会

2022年5月11日（水）、アルカディア市ヶ谷 6階『伊吹』にて開催します。

（2）理事会

事業活動に関する計画立案及び結果報告等のため、全役員による理事会を
年6回程度開催します。

（3）委員会会議

技術委員会、業務委員会の各委員会について、担当理事及び委員による会議を
必要に応じて開催します。

2. 事業活動

（1）技術関係

- | | |
|---------------|-------------|
| ① 新任者教育セミナー | 未定 |
| ② 研修見学会 | 未定 |
| ③ 環境測定技術事例発表会 | 11月（予定） |
| ④ 技術研修会 | 2023年1月（予定） |

- | | |
|--------------------------------------|-----------|
| ⑤ 技術交流
(大環協・環境測定技術事例発表会への参加) | 9 月 (予定) |
| ⑥ 精度管理共同実験
(大環協・精度管理共同実験への参加呼び掛け) | 11 月 (予定) |

(2) 業務関係

- | | |
|-------------------|-----------------|
| ① 会員名簿の発行 | 8 月 (予定) |
| ② 新春賀詞交歓会 | 2023 年 1 月 (予定) |
| ③ 首都圏その他の連絡会議への参加 | 随時参加 |
| ④ その他 (各種親睦会等) | |
| ・ ゴルフ大会 | 未定 |
| ・ その他 | |

(3) 広報関係

- | | |
|-------------------|---------------|
| ① 東環協ニュースの発行 | 年 3 回 (予定) |
| ② ホームページの更新 | 原則、毎月 1 回 |
| ③ 都民計量のひろば行事 | 11 月 1 日 (予定) |
| ④ 各種資料の配付、メールサービス | 随時実施 |

(4) 官公庁その他に対する協力

- | |
|------------------------------|
| ① 東京都計量検定所が行う講習会等への協力 |
| ② 東京都環境局が行う講習会、災害防止対策事業等への協力 |
| ③ (一社)日本環境測定分析協会が行う行事等への協力 |
| ④ その他 |

以 上

[第4号議案] 2022年度 収支予算（案）審議の件

本議案については、当協議会のネット規定上、公開しないこととします

役員改選（案）

現役員13名は本総会終結の時をもって任期満了となりますので、新たに役員の選任をお願いいたします。

立補者は次のとおりです。

任期： 2022年5月総会後～2024年5月総会まで

	立候補者	会社名
1	五十嵐 鋼	(株)東京環境測定センター
2	池田 達也	(株)日本分析
3	石山 直樹	シグマジオテック(株)
4	織間 康行	ムラタ計測器サービス(株)東京支店
5	木村 直樹	(一財)東海技術センター
6	近野 良哉	いであ(株)
7	小柳 伸彦	(株)環境技術研究所
8	笹嶋 宏	(株)分析センター
9	志知 尚彦	帝人エコ・サイエンス(株)
10	田口 和男	(株)オオスミ
11	竹田 良平	ヒロエンジニアリング(株)
12	平賀 積善	(株)環境管理センター
13	村野 光男	環境リサーチ(株)

※ 50音順

東環協選挙管理委員会

東京都環境計量協議会 第45回通常総会 出席者名簿

来賓 (一社) 日本環境測定分析協会 会長 上東 浩 様
 〃 〃 関東支部長 津上 昌平 様

No.	会 社 名	出 席 者 名	備 考
1	いであ(株)		
3	(株)エオネックス		
4	(株)オオスミ		
5	(株)環境管理センター		
7	(株)環境技術研究所		
10	(株)環境総合リサーチ		
11	環境リサーチ(株)		
12	シグマジオテック(株)		
13	(株)島津テクノリサーチ		
14	新日本環境調査(株)		
15	(株)総合環境分析 東京技術センター		
16	ダイヤアクアソリューションズ(株)		
17	帝人エコ・サイエンス(株)		
18	(一財)東海技術センター		
19	(株)東京環境測定センター		
20	(株)トーニチコンサルタント		
21	(株)日新環境調査センター		
22	(株)日本総合科学		
23	(株)日本分析		
24	ヒロエンジニアリング(株)		
27	(株)分析センター		
28	ムラタ計測器サービス(株)		
30	ユーロフィン日本環境(株)		
31	イー・サポート高円寺		賛助
32	関東化学(株)		賛助
33	輝達商事(株)		賛助
34	日本コントロールシステム(株)		賛助
36	ビーエルテック(株)		賛助

※総会開始時点における出席者

来 賓 2 名
 正会員 23 社 30 名
 賛助会員 5 社 6 名
 計 28 社 38 名

委任状 (総会当日までに到着した分)

・(株)伊藤公害調査研究所 ・エヌエス環境(株) ・(株)化学分析コンサルタント ・(株)環境技研
 (板橋) ・(株)環境技研 (杉並) ・(株)環境技術センター ・(株)KANSO テクノス東京支店 ・
 共和化工(株) ・クボタ環境エンジニアリング(株) ・(一財)小林理学研究所 ・三葉化工(株) ・成友
 興業 (株) ・中央建鉄(株) ・(株)長大 東京支社 ・ (株) デイラボ ・(株)東京建設コンサルタン
 ト ・日本エコテック(株) ・(株)日本公害管理センター ・日本環境アメニティ(株) ・日本滌化化
 学(株) ・日本物理探鑛(株) ・八千代エンジニアリング (株)

22 社

第 45 回通常総会後の懇親会報告

総会終了後の 17 時 30 分から、同じくアルカディア市ヶ谷 5 階「大雪」にて、感染症対策を十分にとった上、恒例の懇親会が着席形式で行われました。会員企業 28 社 43 名、来賓 2 名の方々にご出席いただき、盛大に開催されました。来賓には(一社)日本環境測定分析協会 会長 上東浩様、同 関東支部長 津上昌平様をお迎えしました。

近野監事の司会により、冒頭に平賀新会長の挨拶、次いで日環協 上東会長からご祝辞をいただきました。日環協 津上関東支部長による乾杯のご発声により懇親会が始まり、それぞれ歓談しながら楽しい時間を過ごすことが出来ました。

途中、役員を退任される佐藤氏、川東氏から退任の挨拶がありました。続いて新たに理事に就任されました笹嶋理事、織間理事、村野理事からの就任挨拶がありました。その他、賛助会員の皆様からの挨拶も行われました。

宴たけなわの中、小柳監事の音頭による中締めで、懇親会はお開きとなりました。



ご来賓の皆様への祝辞

(一社)日本環境測定分析協会 会長 上東浩 様



<上東会長>

本日はウィズコロナの中で対面での総会、意見交換会が開かれたことをまずはおめでとうございます。コロナのおかげでウェブの限界と対面の良さを実感した2年間であり、今年度はそうした動きの中でいろいろな行事を行っていくものと思います。

日環協も2年後にちょうど50周年を迎えます。この業界が半世紀経ち、いろいろなことを原点に立ち帰ってみるために、この2、3年、日環協では企画運営委員会の中に3つのワーキングを作り、会長、副会長が先頭にたって動いています。

私の世代がこの業界に入ったときは明るいものが先に見えていたような気がします。新卒で入る方々にわれわれの業界に魅力があると自信をもって言える経営層が現在少なくなっているように感じます。

われわれの業界は環境行政の中で非常に大事なものを出していることからブランディングもきちんとやっていかなければならないと思います。私が会長になってから、日環協では環境省や経産省との定常的な情報交換の場を持つようにしており、特にヘリウムガスの不足、価格上昇の中で、ヘリウム以外のガスを使えるようにしなければならないことから、環境化学会とのコラボで、新しく今年度からユーザーとしての要望を告示法改訂に結びつける道筋を作ろうとしています。行政サイドにわれわれの存在を示すとともにブランドを形作り、しっかりと継続性のある事業をやれるようなものを作っていって、新しく社会に入ってくる若い方々が魅力を感じ、入りたいと思える業界にしていきたいと思っています。

ぜひ、意見やアイデアを出して頂き、日環協でやるべきもの、東環協でやって頂くものの棲み分けをしながら、明るい業界団体になるようにもう一度見直ししながら動いて参りたいと思います。是非ご協力の程宜しくお願い致します。

簡単ですが日環協会長としての挨拶とさせていただきます。



＜津上支部長による乾杯＞



＜司会の近野監事＞



＜懇親会風景Ⅰ＞



＜懇親会風景Ⅱ＞



＜懇親会風景Ⅲ＞



＜小柳監事による中締め＞



東京都環境計量協議会第45回通常総会懇親会 出席者名簿

来賓 (一社) 日本環境測定分析協会 会長 上東 浩 様
 〃 関東支部長 津上 昌平 様

No.	会 社 名	出 席 者 名	備 考
1	いであ (株)		
3	(株) エオネックス		
4	(株) オオスミ		
7	(株) 環境管理センター		
9	(株) 環境技術研究所		
12	(株) 環境総合リサーチ		
13	環境リサーチ (株)		
14	シグマジオテック (株)		
15	新日本環境調査 (株)		
16	(株) 総合環境分析 東京技術センター		
17	帝人エコ・サイエンス (株)		
18	(一財) 東海技術センター		
19	(株) 東京環境測定センター		
20	(株) トーニチコンサルタント		
22	(株) デイラボ		
23	(株) 日新環境調査センター		
24	(株) 日本シーシーエル		
25	(株) 日本総合科学		
26	(株) 日本分析		
29	ヒロエンジニアリング (株)		
32	(株) 分析センター		
34	ムラタ計測器サービス (株)		
37	ユーロフィン日本環境 (株)		
38	イー・サポート高円寺		賛助
39	関東化学 (株)		賛助
40	輝達商事 (株)		賛助
41	日本コントロールシステム (株)		賛助
43	ビーエルテック (株)		賛助

来 賓 2 名
 正 会 員 23 社 37 名
 賛助会員 5 社 6 名
 計 28 社 45 名

2021年度 技術研修会報告

2021 年度もコロナ禍のため各種行事を中止せざるを得ない状況でありましたが、技術研修会については若手技術者を育成するための教育事業として重要であり、理事会としてもその開催方法を模索した結果、昨年につきオンライン方式での開催と致しました。

今回は、世界的な問題となっているマイクロプラスチックに関する話題として「これからマイクロプラスチック分析を始める方へ～マイクロプラスチック分析はここまで簡単になった！～」というテーマで千葉工業大学准教授の亀田豊様にご講演頂きました。開催の概要等は以下の通りです。

日 時：2022 年 1 月 20 日（木） 15 時 30 分～16 時 30 分（接続開始 15 時～）

方 法：オンライン方式（Zoom ミーティング）

テ ー マ：「これからマイクロプラスチック分析を始める方へ

～マイクロプラスチック分析はここまで簡単になった！～」

講 師：千葉工業大学 創造工学部都市環境工学科 准教授 亀田 豊 様

定 員：80 事業所を対象（先着順）

※ 1 事業所につきパソコン 1 台での参加とし、1 台のパソコンで各事業所の参加者全員が視聴するようお願いしました。（Zoom 契約数による制限が有り参加各社のご理解、ご協力のもとで無事に実施できました。）

会 費：1 アクセス 2,000 円

参 加 者：52 名（来賓ほか 3 名、会員 24 社 49 名）

※詳細は参加者名簿の通りです。

講演内容：

講演は、講義開始の 30 分前より聴講予定者による接続を受付し、定刻の 15:30 より司会の五十嵐副会長による開会の挨拶で始まりました。

次いで、佐藤会長が挨拶され、コロナ禍における当協議会の活動状況の説明が有った後、事務局より本テーマ選定に至る経緯説明が有りました。

講師の亀田豊先生より自己紹介をいただいた後、講演が開始されました。多くの貴重な説明資料を基にマイクロプラスチックの調査方法の基本的なところから、調査、研究の問題点や最新の研究結果に基づく知見等についてご講演を頂きました。

- 説明項目
- ・ マイクロプラスチック（MPs）調査、研究の問題点
 - ・ MPs の採取方法、分析方法、解析方法
 - ・ 最新技術を用いた MPs 研究調査結果
 - ・ 下水処理場流入原水中のマイクロプラスチック濃度とポリマー

別流入負荷量特性

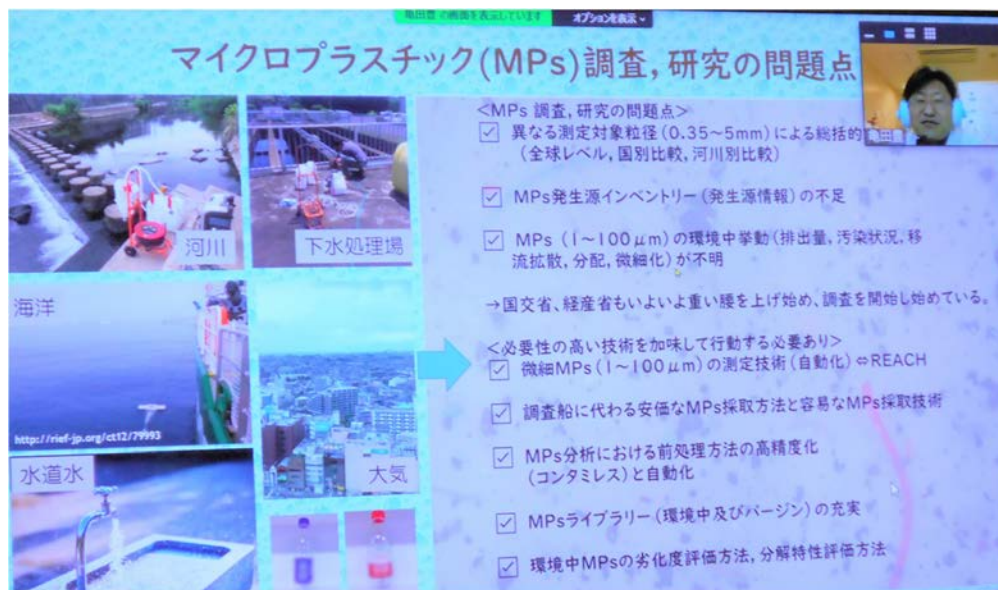
・国内水道水中マイクロプラスチック存在実態と発生源推定

講演には、マイクロプラスチック (MPs) 調査を実際に行う上で必ず直面すると思われる、適切な過量の決定、夾雑物質の除去、前処理方法といった実際上の問題に対する対応方法が多く盛り込まれ、具体的な作業イメージがよく分かるものでした。

また、ガイドラインにはない 1mm 未満のマイクロプラスチックに対する試料採取方法、より高濃度に濃縮するための前処理方法、顕微 FTIR を用いた解析・同定方法についても分かりやすくご説明頂き、今後そうした調査手法に対する需要も高まっていくであろうと感じました。

そして、最後に亀田先生の豊富なご経験の中から具体的な調査事例についてもいくつかご紹介頂きました。

今回の講演は、マイクロプラスチックの分析を行ったことが無い方にも分かりやすく、「新たに取り組むなら今かもしれない」というチャレンジ意欲を沸き立たせるものでした。貴重なご講演をありがとうございました。



ZOOM 講演中の様子 (写真右上が亀田先生)



2021年度 技術研修会 参加者

東京都環境計量協議会

2022年1月20日（木） 於 アルカディア市ヶ谷 6階「阿蘇」

来 賓

(一社) 日本環境測定分析協会 会 長 上 東 浩 様
副会長 小野寺 明 様

会 員

N o	会 社 名	氏名	備考
1	いであ(株)		
2	(株)エオネックス		
3	エヌエス環境(株)		
5	(株)オオスミ		
11	(株)環境管理センター		
12	(株)環境技術研究所		
13	(株)環境総合リサーチ		
14	環境リサーチ(株)		
16	(株)島津テクノリサーチ		
19	新日本環境調査(株)		
21	成友興業(株)		
22	(株)総合環境分析		
24	ダイヤアクアソリューションズ(株)		
25	帝人エコ・サイエンス(株)		
29	(一財)東海技術センター		
32	(株)東京環境測定センター		
33	(株)トーニチコンサルタント		
35	(株)日新環境調査センター		
38	(株)日本分析		
40	ヒロエンジニアリング(株)		
45	(株)分析センター		
47	ムラタ計測器サービス(株)		
49	ビーエルテック(株)		

特別参加

	(一社) 日本環境測定分析協会 関東支部		
--	----------------------	--	--

来賓2名、会員23社49名、特別参加1名（アカウント数39）

2021 年度環境計量証明事業団体合同研修会報告

東京都環境計量協議会 首都圏環協連担当

東環協が所属する「首都圏環境計量協議会連絡会（首都圏環協連）」は東京、神奈川、千葉、埼玉の 1 都 3 県の県単で構成され、環境測定技術の向上をはじめ、環境計量証明事業に関する諸問題を共有化して改善するために年数回の会合を開き情報・意見交換している任意団体です。

数年前より交流活動を全国区に広げた合同研修会を年一回開催することとなり、今年度は東京都環境計量協議会（東環協）が代表幹事を務めました。首都圏が蔓延防止措置宣言下であったこともあり、今回はリモート会議形式での開催となりました。

今年度のメインテーマは『災害時協定、BCP、SDGs』とし、第 1 部として各県単の皆様より活動状況を発表いただきました。また、第 2 部として（一社）埼玉県環境計量協議会より「BCP、SDGs の取り組み状況」を詳細に発表いただき、意見交換を行いました。

《開催日・開催形式》

2022 年 2 月 17 日（木）13：30～16：30

東環協事務局をホストとしたリモート会議形式（Zoom）

《プログラム》 総合司会 東京都環境計量協議会理事 平賀 積善氏

主催者挨拶：東京都環境計量協議会会長 佐藤 隆氏

出席者のご紹介

第 1 部 各県単からの報告（120 分）

- 1）2021 年度県単における事業活動状況
- 2）自治体との災害時における協定の動向

第 2 部 「BCP、SDGs の取り組み状況」

- 1）埼環協の取り組みについて
（一社）埼玉県環境計量協議会事務局 野口 裕司氏（15 分）
- 2）自由討議 業界としての方向性について（15 分）

閉会挨拶：（一社）神奈川県環境計量協議会会長 梶田 哲弘氏

【参加団体】（順不同）

首都圏環境計量協議会連絡会 {東京都環境計量協議会、（一社）神奈川県環境計量協議会、千葉県環境計量協会、（一社）埼玉県環境計量協議会}、（一社）群馬県計量協会環境分科会、新潟県環境検査協会、長野県環境測定分析協会、山梨県環境計量協会、北海道環境計量証明事業協議会、（一社）愛知県環境測定分析協会、大阪環境測定分析事業者協会、広島県環境計量証明事業協会、（一社）福岡県環境計量証明事業協会、横浜市環境技術協議会、堺市環境計量協議会、オブザーバー {茨城県（個人）、日環協関東支部}・・・計 15 団体

【所 見】

環境 SDGs に関する先進的な取り組み事例として埼環協の野口様よりご講演がありました。

環境保証（Environment）、品質（Quality）、コスト（Cost）、納期（Delivery）の視点をもとに、環境保証活動と経済活動の 2 つのベクトルを一致させた企業活動が環境 SDGs であり、こうした取り組みは、1 企業では難しくても県単という団体を通して可能となり、顧客への PR として活用できるというご講演に大変大きな勇気を頂きました。

また各県単からの災害時協定、BCP、SDGs への取り組みについて様々な事例紹介があり、あらためて業界全体として取り組んでいくことの重要性を再認識することができました。

BCPIに関連した取り組みについて

災害時の石綿モニタリングに関する合意 (埼玉県環境部・埼環協・神環協)

○災害時における石綿モニタリングに関する合意(平成30年11月6日)

埼玉県環境部と埼玉県環境計量協議会が締結

会員11社と県外1団体(神奈川県環境計量協議会)による構成

○協定の概要

地震、洪水、土砂災害などの大規模な災害により損壊した建築物等から石綿が使用された建築物等から石綿が飛散していないかモニタリングを協力

○協定の内容

<平常時>

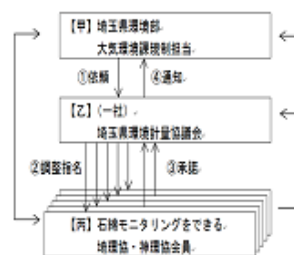
・実地による石綿のモニタリングと分析の訓練

・室内研修

・(石綿台帳の整備)

<緊急時>

・石綿のモニタリング協力



<緊急時の体制>

2021年度 首都圏環境協 環境計量証明事業団体 合同研修会

1

2022年2月17日

BCPIに関連した取り組みについて

広域における県単同士の相互応援協定の締結

県単による
「災害時相互応援協定」の締結
2019年10月

<協定団体>

- 一般社団法人 愛知県環境測定分析協会
- 一般社団法人 神奈川県環境計量協議会
- 一般社団法人 埼玉県環境計量協議会
- 堺市環境計量協議会
- 一般社団法人 福島県環境測定・放射能計測協会
- 横浜市環境技術協議会
- 大阪環境測定分析事業者協会(2020年2月追加加盟)

<趣旨>

近隣または遠隔の団体と緊急時の「応援体制」を取り、互いに支えあう
専門技術者が広域に手を組むことは、国民の安心かつ安全につなげる社会貢献ができる

<活動目標>

協定県単の支援、災害時の対応に関する日頃の備えを提言

<平常時の活動>

- ① 応援実施の事例について、情報共有し、効果的な方法を意見交換する。
- ② モニタリング等の技術向上について、情報共有し、新たな調査技法を検討する。
- ③ 協定を通じて自治体に提言する事項を検討する。
- ④ 訓練を定期的に実施し、協定内容を点検し、必要に応じて見直す。

2021年度 首都圏環境協 環境計量証明事業団体 合同研修会

2

2022年2月17日

県単組織間の協定について

1. 応援内容の確認

- ＊ 現地調査・測定・分析：石綿、飲用水（地下水等）、有害化学物質
- ＊ サポート：（試料の）引き取り・受け渡し、移動支援、食事宿泊支援、燃料確保

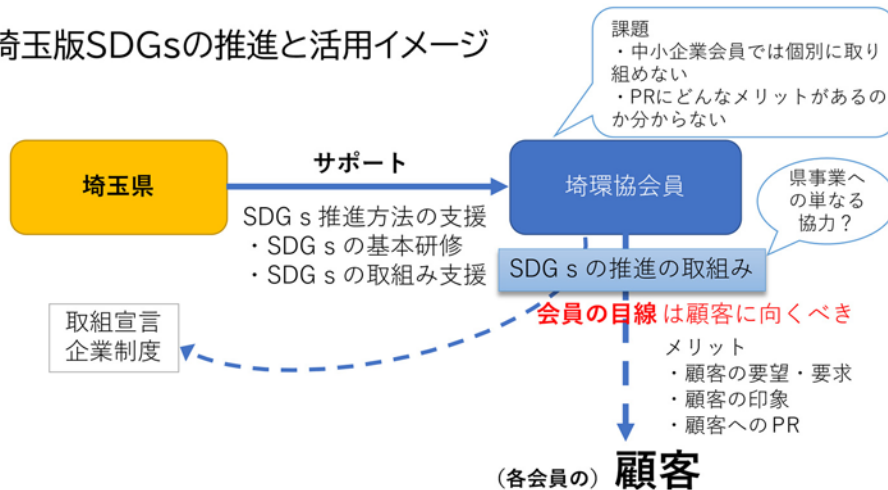
2. 協力会員の後方支援

- ＊ 平常時と異なり、応援作業の負担増大。
- ＊ 会員自社業務の対応の兼ね合いと優先順位の選択。
- ＊ 費用負担とその在り方（人件費、分析費、移動交通費、宿泊費）
- ＊ 中継支援

3. 日頃の備え

- ＊ 手順の確認、連絡体制、会員の対応範囲（測定項目）の確認
- ＊ 定期的な意見交換や研修・訓練
- ＊ 会員のBCPの推進
- ＊ リスク軽減のための意見交換や研究、対策 → 自治体等に提言

埼玉版SDGsの推進と活用イメージ



進めるにあたっての考え方の一例

- ・個別に取り組める会員は、この推進（サポート）の必要性は個別判断
- ・SDGsの推進は、増収や顧客へのPRにつながるメリットが必要であり、目線は顧客であるべき
- ・取組みは、「個別」「埼環協同」が考えられ、取組宣言は「個別」では各会員の判断であり、「埼環協同」であれば会員全体のメリットとならないか？

「埼玉県環境SDGs取組企業宣言書」の抜粋

取組項目	取組内容及び関連するSDGsのゴール
	【廃棄物】 廃棄物の管理を適正に行い、適正な処理に取り組む   
	【3Rの推進】 リデュース、リユース、リサイクルに取り組む  
	【省エネ】 省エネルギー対策に取り組む  
	【気候変動】 気候変動（温暖化）対策に取り組む   
○	【化学物質等】 有害物質の測定を通じ、化学物質の削減対策等に取り組む     
○	【生物多様性】 環境調査全般の事業を通じ、生物多様性や生態系に配慮する  
○	【水の管理】 水環境にかかる分析等を通じ、水資源の利用状況の管理・利用効率の改善に取り組む 
○	【人材育成・環境学習】 共同実験・研修・講習会等、広報・啓発の事業などを通じ、社内の人材育成や環境学習等を行う   
○	【社会貢献活動】 災害等の緊急時の調査、事業者活動の測定サービス、信頼性確保、環境分野の立案・助言を通じ、社会貢献活動に取り組む     

※指定様式のうち、宣言部分を抜粋しています。

災害時における石綿モニタリング調査

「災害時における石綿モニタリング調査協定」研修会報告

東京都環境計量協議会 平賀 積善

2020年9月10日、東京都及び東京都環境計量協議会では大規模災害時における都民の安全・安心に寄与する基礎データの収集を目的とした「災害時における石綿モニタリングに関する協定」を締結しております。この協定では、大規模災害に伴う被災建築物等の解体及び解体廃棄物の処理に伴う石綿の飛散状況を把握するための環境モニタリングを実施し、基礎データを収集することとなっています。

この協定の実効性を高めるためには平時における研修や訓練が重要であり、2021年12月7日には東京都及び東京都環境計量協議会による「災害時アスベストばく露・飛散防止に係る研修」を区市町村の担当職員や関係団体を含めてweb配信により実施しました。

また、この協定の基本となるマニュアルについては、東京都環境局が「東京都版災害時におけるアスベスト飛散防止マニュアル」を作成、2022年4月1日より東京都のホームページ内に公開をしております。今後は、災害時の業務対応の流れを示した「災害時における環境モニタリング調査の事務フロー」について、東京都環境局より当協議会及び区市町村への配信が予定されております。

実際の災害時には、これらのマニュアルや事務フローを基に、東京都環境計量協議会と東京都及び区市町村が連携して都民の安全を守るべくアスベスト飛散に係る環境モニタリング調査を実施することとなります。

「災害時における石綿モニタリング調査」は、都民の安心と安全を担保する根幹的な業務と捉え、東京都環境局、区市町村、東京都環境計量協議会が共通認識と共通理解を持ち、平時において準備を進め、研修、訓練を重ねることで災害に備えるよう進めて参ります。

会員の皆様、今後も宜しくお願い致します。

佐藤前会長退任挨拶

会員の皆様におかれましては、日頃より当協議会の事業活動に多大なるご協力を賜り感謝申し上げます。さて、去る5月11日に念願の対面式で開催されました第45回通常総会におきまして、私事ですが会長を退任させて頂く事になりましたので、改めてご報告申し上げます。

振り返れば、私は2006年に理事に就任し、2008年から3期6年副会長を務め、2014年からは4期8年間に亘り会長を務めさせて頂きましたので、トータル16年間協議会の役員として活動させて頂きました。その間、さまざまな業界における問題点を皆様と共に勉強させて頂きましたが、個人的には業界のインナーブランディングの向上に注力して参りました。それは当時から、同じ環境計量証明事業者でありながら、他社の分析データの信頼性を危惧する風潮がありました。そこで、この環境測定分析業界が外部の業界から信頼を得るには、内部で働く社員を含め多くのステークホルダーから権威ある信頼性を高める事が重要と考えました。そのため主に「新任者教育セミナーの開催」、「環境測定技術事例発表会」、「技術研修会」など参加者にとって直ちに分析スキルや専門知識の向上に繋がる事業活動を東京都環境局、計量検定所、首都圏環協連などの諸団体にも協力頂きながら継続して参りました。その甲斐もありまして、2010年頃より東京都計量検定所検査課によります登録機関への立入調査において、職員の皆様から「この事業所は、東京都環境計量協議会の研修会に参加するなど自己研鑽や技術向上に努めていますか？」とお声掛け頂けるようになりました。これは、我々の精度管理向上を目的とした事業活動に一定のご理解を頂いた賜物と思っております。一方、アウターブランディングに繋がる活動としては、2015年より東京都環境局環境改善部に大規模災害時における水質環境調査や石綿モニタリング調査などの協力協定に関する提案を継続して参りました結果、一昨年によく「災害時における石綿モニタリング調査に関する協定」を締結する事が出来ました。これも偏に協力機関ネットワークに賛同頂いた会員皆様の賜物と感謝致します。

この度、私に代わって会長に就任頂いた(株)環境管理センターの平賀積善氏は、大変明るく行動的なエネルギー人であり、東京都環境局をはじめ環境省などの中央官庁にも精通している方なので、これまで以上に業界としてのアウターブランディングの向上に尽力頂けるものと期待しております。もちろん、弊社も引き続き皆様と共に業界発展に寄与する所存です。長い間、小職にご支援賜りまして本当にありがとうございました。

新役員挨拶

第45回通常総会により役員改選が行われました。新たな役員の任期は2022年5月総会後から2024年5月総会までです。

なお、選任された役員の役職は次の通りといたします。

	役 職	氏 名	会社名	備考
1	会 長	平賀 積善	(株)環境管理センター	留任
2	副会長	五十嵐 鋼	(株)東京環境測定センター	留任
3	副会長	木村 直樹	(一財)東海技術センター	留任
4	理 事	竹田 良平	ヒロエンジニアリング(株)	留任
5	理 事	田口 和男	(株)オオスミ	留任
6	理 事	志知 尚彦	帝人エコ・サイエンス(株)	留任
7	理 事	池田 達也	(株)日本分析	留任
8	理 事	石山 直樹	シグマジオテック(株)	留任
9	理 事	笹嶋 宏	(株)分析センター	新任
10	理 事	織間 康行	ムラタ計測器サービス(株)東京支店	新任
11	理 事	村野 光男	環境リサーチ(株)	新任
12	監 事	近野 良哉	いであ(株)	留任
13	監 事	小柳 伸彦	(株)環境技術研究所	留任

2022年度の総会において、3名の新役員が承認されました。新たな役員は以下のとおりです。

- ・理事：笹嶋 宏 (株)分析センター
- ・理事：織間 康行 ムラタ計測器サービス(株)東京支店
- ・理事：村野 光男 環境リサーチ(株)

新しく役員になられました方々に今後の抱負を含めてご挨拶をいただきました。

笹嶋 宏 理事 [(株)分析センター]



< 笹嶋理事 >

第45回通常総会で新しく役員に選任されました株式会社分析センターの笹嶋でございます。今までは業務委員として活動しておりましたが、この度理事を務めさせて頂くことになりました。このような大役を仰せつかり身の引き締まる思いです。

未だ新型コロナウイルスの影響で活動が制限される中ではございますが、分析業界を盛り上げていきたいと思っております。

若輩者ではございますが、東京都環境計量協議会と会員の皆様のお役に立てるよう精一杯尽力させていただきます。ご指導、ご鞭撻を賜りますよう何卒宜しくお願いいたします。

織間 康行 理事 [ムラタ計測器サービス(株)東京支店]



< 織間理事 >

第45回通常総会において新たに理事に選任されましたムラタ計測器サービス株式会社の織間康行でございます。前期途中から委員として東京都環境計量協議会の活動に参加してまいりましたが、今総会で理事に選任していただきました。

理事としての仕事については、まだわからないことばかりで皆様にご迷惑をおかけすることがあるかもしれませんが、精一杯対応できるよう努めさせていただきます。

未だに出口の見えないコロナ禍、東欧での戦禍、国際的な原料価格の高騰など社会を取り巻く環境が不透明な昨今ではありますが、東京都環境計量協議会の発展とともに環境計量業界の発展の一助となれればと考えております。

役員の方々をはじめ、会員企業様の御役に立てるよう精一杯努力して参る所存です。

ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

村野 光男 理事〔環境リサーチ(株)〕



＜村野理事＞

第 45 回通常総会で新たに理事に選任されました環境リサーチ株式会社の村野でございます。前期まで当社から福浦が理事を務めさせていただいておりましたが、その後任として就任させていただきます。

コロナ等で厳しい社会状況ではありますが、そんな時こそできることをコツコツと積み上げて少しでも前進していければと考えております。

微力ではありますが、東京都環境計量協議会の発展と役員・会員、および関係者の皆さまのお役に立てるよう精一杯努めさせていただきます。新任で分からないことも多いので、皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。



役員の役割分担

2022年度は、下記のような役員の役割分担で事業を進めて参ります。

	平賀	五十嵐	木村	竹田	田口	志知	池田	石山	笹嶋	織間	村野	近野	小柳	事務局
役員会議事録					◎	○	○	○					○	
ホームページ管理		○				○	◎				○	○		
資料作成管理		○	○											○
会員名簿管理														◎
首都圏連絡委員会	◎	○	○									○	○	○
東環協ニュース		◎			○		○					○		
官庁関係挨拶等	◎	○	○											
新任者教育セミナー	○	○	○									◎		○
研修見学会						◎	○	○						
大環協事例発表会	◎		○					○						
技術研修会	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
事例発表会	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
都民計量のひろば			○		○	○	○	○		○		○	◎	
親睦会(ゴルフ)					○			◎						
親睦会(その他)	○	○	◎						○	○			○	
賀詞交歓会	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
総会	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
会計監査	○	○	○									○	○	◎
石綿モニタリング	◎	○	○		○	○			○		○			
役員会招集	◎	○	○											○

委員会	安藤		
技術委員会	○		
広報委員会			
業務委員会			

◎主担当

○担当

関係機関・団体の動き

2022 年 6 月現在で、既に実施または今後予定されている関係機関及び団体の動きは、以下のとおりです。

○ 首都圏環境計量協議会連絡会

- ・ 第 1 回首都圏環境計量協議会連絡会 6 月 8 日 (株)分析センター
(web 併用)
- ・ 新任者教育セミナー 6 月 16～17 日 web 開催
- ・ 環境計量証明事業団体合同研修会 8 月予定

○ (一社)神奈川県環境計量協議会

- ・ 通常総会・第 1 回理事会 5 月 26 日 web 開催
- ・ 第 2 回理事会 7 月 20 日
- ・ 親睦地引網大会 7 月 30 日
- ・ 第 3 回理事会 9 月 21 日
- ・ 第 4 回理事会 11 月 16 日
- ・ 第 5 回理事会 1 月 18 日
- ・ 第 6 回理事会 3 月 22 日

○ 千葉県環境計量協会

- ・ 理事会・通常総会 4 月 22 日 プラザ菜の花(web 併用)
- ・ 理事会 5 月 25 日

○ (一社)埼玉県環境計量協議会

- ・ 第 1 回理事会 5 月 13 日 貸会議室
- ・ 総会 5 月 27 日 (一社)埼玉県環境検査研究協会 土呂支所
- ・ 第 2 回理事会 7 月 15 日
- ・ 第 3 回理事会 10 月 14 日
- ・ 研究発表会 11 月
- ・ 第 4 回理事会 12 月 9 日
- ・ 第 5 回理事会 3 月 10 日

○ (一社)日本環境測定分析協会

- ・ 通常社員総会 5 月 24 日 タワーホール船堀
- ・ 経営セミナー全国大会 in 北の大地 9 月 2 日 ホテルモントレエーデル
ホフ札幌
- ・ 環境セミナー全国大会 in 京都 10 月 6～7 日 ホテルグランヴィア
京都

東環協からのお知らせ

○ 2022 年度これからの主要行事予定

・ 新任者教育セミナー	6 月 16～17 日	web 開催
・ 首都圏環協連合同研修会	8 月	詳細調整中
・ 研修見学会	9～10 月	詳細調整中
・ 環境測定技術事例発表会	11 月	詳細調整中
・ 精度管理共同実験（大環協）	未定	
・ ゴルフ大会	未定	
・ 都民計量のひろば	11 月 1 日	詳細調整中
・ 技術研修会、新春賀詞交歓会	1 月	詳細調整中

※ 各行事共に新型コロナウイルス感染症の流行状況によっては、中止とさせていただきます。

○ 事務局からのお知らせ

・ 現在の会員数（2022 年 6 月 30 日現在）

正 会 員	61社		
賛助会員	21社	合 計	82社

○ 編集後記

「東環協ニュース」第 179 号が無事に完成しましたので皆様にお届けいたします。今回のニュースは、新会長挨拶、通常総会、通常総会後の懇親会、技術研修会、環境計量証明事業団体合同研修会、災害時における石綿モニタリング調査の動向、前会長退任挨拶などに関する記事を掲載させて頂きました。

8 年振りの役職交代に伴い、一部の記事では開催当時の役職名となっている箇所があります。何卒ご容赦頂きたく存じます。

新型コロナウイルスの感染状況は漸く落ち着く気配をみせています。今年度こそは、環境測定技術事例発表会、技術研修会、新春賀詞交歓会といった様々な行事で皆様とお会いできることを切に祈念しております。

今後も会員の皆様に興味を持って頂ける企画・運営を心掛けて参りますのでご支援の程、宜しく願い申し上げます。

認証標準物質 (CRM)

～グローバルレベルの分析技術～



MRA JCSS
ASNITE

ISO 17034
民間企業初取得

ISO/IEC 17025
国内試薬メーカーで
初取得

ISO 9001
国内試薬メーカーで
初取得

ISO 14001
試薬業界で初取得



関東化学 認証標準物質

検索



[認定概要] MRA JCSS

種 別	品目数	製品数	認定業者
pH 標準液 (第 1 種)	2	2	伊勢原工場 (認定番号: 0015)
pH 標準液 (第 2 種)	6	15	
金属標準液	33	50	草加工場 (認定番号: 0014)
金属混合標準液	1	1	
非金属イオン標準液	12	16	
有機化合物標準液	3	3	
有機化合物混合標準液	5	5	

ASNITE 認定 認証標準物質

認定概要 容量分析用標準物質 : 10品目
定量NMR用標準物質 : 2品目
電気伝導率測定用標準液 : 1品目

認証書 (COA)

ILAC MRAマーク・IA Japan認定シンボル入りの認証書

ISO/IEC 17025対応 容量分析用滴定液

適用品目 20品目

試験報告書 (COA)

ILAC MRAマーク・JAB認定シンボル入りの試験報告書
※試験報告書は有料でご提供しております。



関東化学株式会社

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町2丁目2番1号 (03)6214-1090

HPシリーズ 精密圧力調整器の紹介

精密圧力調整器は、高精度、高品質の標準ガスと共に、環境計測分野を始め、様々な産業界で使用され、絶大な信頼を得ています。今回、新たなシリーズを加えることにより、ユーザーのニーズにお応えできるよういたしました。



HPシリーズ 精密圧力調整器

HPシリーズは、環境計測などの精密分析から高度な実験研究など広範囲にご使用可能です。

標準ガスや高品位ガス用として設計されたHPシリーズは、特別クリーン洗浄・組立仕様の精密圧力調整器です。

精度の高い
圧力調整

特別クリーン
洗浄

特別クリーン
組立仕様

HPシリーズ 精密圧力調整器仕様一覧表

品 名	Hp型式	材 質	圧力計 (MPa)		ネ ジ	品 名	Hp型式	材 質	圧力計 (MPa)		ネ ジ
			1次側	2次側					1次側	2次側	
1段式 B s圧力調整器	HP-1B-2506-R	B s	25	0.6	右	2段式 B s圧力調整器	HP-2B-2503-R	B s	25	0.3	右
	HP-1B-2510-R			1	右		HP-2B-2506-R			0.6	右
	HP-1B-2516-R			1.6	右		HP-2B-2510-R			1	右
	HP-1B-2506-H			0.6	ヘリウム		HP-2B-2516-R			1.6	右
	HP-1B-2510-H			1	ヘリウム		HP-2B-2503-H			0.3	ヘリウム
	HP-1B-2516-H			1.6	ヘリウム		HP-2B-2506-H			0.6	ヘリウム
	HP-1B-2506-L			0.6	左		HP-2B-2510-H			1	ヘリウム
	HP-1B-2510-L			1	左		HP-2B-2516-H			1.6	ヘリウム
1段式 S U S圧力調整器	HP-1S-2516-L	S U S	25	1.6	左	2段式 S U S圧力調整器	HP-2B-2503-L	S U S	25	0.3	左
	HP-1S-2506-R			0.6	右		HP-2B-2506-L			0.6	左
	HP-1S-2510-R			1	右		HP-2B-2510-L			1	左
	HP-1S-2516-R			1.6	右		HP-2B-2516-L			1.6	左
	HP-1S-2506-H			0.6	ヘリウム		HP-2S-2503-R			0.3	右
	HP-1S-2510-H			1	ヘリウム		HP-2S-2506-R			0.6	右
	HP-1S-2516-H			1.6	ヘリウム		HP-2S-2510-R			1	右
	HP-1S-2506-L			0.6	左		HP-2S-2516-R			1.6	右
	HP-1S-2510-L			1	左		HP-2S-2503-H			0.3	ヘリウム
	HP-1S-2516-L			1.6	左		HP-2S-2506-H			0.6	ヘリウム
							HP-2S-2510-H			1	ヘリウム
							HP-2S-2516-H			1.6	ヘリウム
							HP-2S-2503-L			0.3	左
							HP-2S-2506-L			0.6	左
							HP-2S-2510-L			1	左
							HP-2S-2516-L			1.6	左

※全ての機種にストップバルブが付いています。
※出口形状はRc1/4です。
標準付属品としてホースニップルを付けることが可能です。
それ以外の継手が必要な場合は、下記オプションを指定してください。

出口継手	継手の種類	サイズ
標準付属品	ホースニップル	φ6・φ8.5
オプション	テフロンチューブ継手	1/8・1/4・3/8・φ6
	SUSパイプ継手	1/8・1/4・3/8・φ6



高圧ガス工業株式会社
KOATSU GAS KOGYO CO., LTD.



<https://www.koatsugas.co.jp/>

高圧ガス工業 検索

本社 〒530-8411 大阪府大阪市中西崎2丁目4番12号
梅田センタービル 28階

☎ 06(7711)3355

東京事務所 〒100-0011 東京都千代田区内幸町1丁目2番1号
日土地内幸町ビル 9階

☎ 03(3595)3122

滋賀工場 〒529-1441 滋賀県東近江氏五個荘川並町368番地

☎ 0748(48)6222



お客様各位

平素はエルメックス商品をご愛顧賜り誠にありがとうございます。

ELMEX Post は、微生物検査ご担当者様宛に、弊社商品の発売や仕様変更、セミナー・学会・展示会、その他関連する情報を提供する目的で発信しています。本紙が適切でない部署に配信されている場合は、適切な部署へ転送下さいます様よろしくお願い申し上げます。

◆◆◆ 水質汚濁に係る環境基準が変更されます ◆◆◆

大腸菌群検査から特定酵素基質寒天培地による大腸菌検査へ

環境基本法第16条第1項「水質汚濁に係る環境基準について」の一部改正

令和3年3月の「水質汚濁に係る生活環境の保全に関する環境基準の見直しについて(第2次報告案)」を受け、生活環境項目環境基準において、よりふん便汚染の指標性が高い大腸菌数を新たな衛生微生物指標とし、大腸菌数の測定には特定酵素基質寒天培地による検査法が適当とされました。

特定酵素基質 5-プロモ-4-クロロ-3-インドリル-β-D-グルクロニド(X-GLUC)を含む、当社のアガートリコロールが大腸菌数検査に使用できます。

〈検査方法〉

- ①滅菌した密閉できる容器に採水
- ②メンブランフィルターで検水を吸引ろ過
- ③ろ過したメンブランフィルターをアガートリコロール培地に密着させ、倒置し培養
- ④培養後青色のコロニーを数える

〈大腸菌数の環境基準〉(予定)

水道 1 級	100CFU/100mL
水道 2 級	300CFU/100mL
水道 3 級	1000CFU/100mL
水浴 (プール等)	300CFU/100mL
自然環境保全 人為的なふん便汚染が極めて少ないと考えられる地点 および自然公園等に指定されている海域の河川・湖沼	20CFU/100mL

環境省から上記命令等の適用は、令和4年4月1日の予定です。

Pro-media アガー

トリコロール

大腸菌群・E.coli 同時検査用

ラウリル硫酸 Magenta-GAL・X-GLUC 寒天培地

透明な培地の上に E.coli は青く、大腸菌群は赤く発色。判定が簡単にできます。



〈使用方法〉

1袋(7.85g)を200mLの精製水、または39.3gを1000mLの精製水に加え、加温溶解するか、オートクレーブ滅菌を行う。

(加温溶解した培地は当日中にご使用ください)

品名	Pro-media アガートリコロール (顆粒)	
コード No.	XMA-01N	XMA-400
入数	7.85g/袋×40	400g/ボトル
価格 (税別送料込)	¥17,000	¥21,300

----- カタログ・サンプル 要求書 ----- Fax: 03-3831-9829 -----

送付先をご記入ください		お気軽にお問合せください アガートリコロール ☐ カタログ希望 ☐ サンプル希望
御社名	e-mail	
〒 ご住所	都道府県	
ご担当者名	TEL	
ユーザー様名		エルメックス商品仕入れ先 (業者名) 東京科研

高速イオンクロマトグラフ

IC-8100

先進のセパレーションテクノロジーを継承、
さらに進化したニューコンセプトIC・・・
ますますの快適さと信頼性をお届けします。

ION CHROMATOGRAPH

IC-8100



高速分析

測定時間5分のハイスループット分析を実現

高速分離カラムとの組み合わせで、陰イオン・陽イオンの測定がそれぞれ5分で終了。
分析時間を大幅に短縮できます。

測定時間10分で臭素酸を含む水道水質基準項目の分析を実現

水道水質分析用の高速高分離カラムと、高感度ポストカラム反応システムを用いることで、
臭素酸を含む水道水質基準項目が10分以内で測定できます。
従来、複数の条件で行なわれていた分析を一度の測定で行うことが可能です。

高感度

自動交換型ゲルサプレッサー方式で高感度分析が可能

サプレッサーロータリーバルブとサプレッサーゲルを組み合わせた、自動交換型ゲルサプレッサー方式の採用により
安定した高感度連続自動分析が可能です。

高機能 拡張性

自動希釈機能付きのオートサンプラーを標準搭載 (IC-8100EX)

高濃度イオン含有試料などに対して希釈と注入を連続して行うことができます。

試料濃縮機能を追加搭載可能

オプションの試料濃縮機能を追加すれば、最大1200 μ Lの試料を濃縮カラムを用いて濃縮し、
自動でイオンクロマトグラフィー測定を行うことが可能です。試料のマトリックスの影響を抑え、より高感度な測定をすることが可能です。

IC-8100シリーズ専用紫外可視吸光度検出器

フローセルの最適化及び温度変化を最小限に抑えた流路設計により、低ノイズ、低ドリフトのベースラインを実現しています。
当社従来器に比べて感度がおよそ5倍向上しています(亜硝酸イオンのS/Nより算出)。

IC-8100EX専用自動溶離液供給ユニット

新規開発した調製機構により安定的に溶離液を調製し、装置へ供給します。
濃縮溶離液と純水をセットするだけで分析が可能となります。
常に安定した組成の溶離液が供給されるため、経時変化による溶出時間の変動がなく安定した分析が可能です。

IC-8100EX専用自動前処理ユニット

専用前処理用陽イオン交換ゲルを用いて、自動で試料を前処理してからイオンクロマトグラフに注入することが可能です。
試料の中和処理や、カラム寿命に影響を与える可能性のある過剰に含まれる対イオンや金属の除去ができます。
自動処理が可能であるとともに、前処理にかかるコストは約50円/分析と前処理コストの削減にも寄与します。

IC-8100シリーズ専用ポストカラム反応システム

イオンクロマトグラフIC-8100EXと紫外可視吸光度検出器UV-8100との組み合わせにより
水道水質検査法に準拠した臭素酸やシアン等の高感度分析を実現します。

※ "IC-8100" は日本における東ソー株式会社の登録ロゴです。



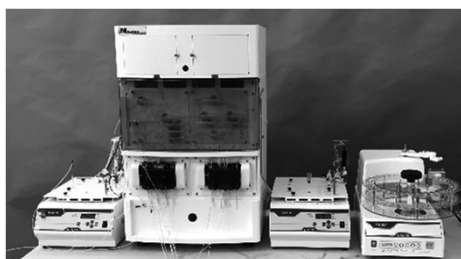
東ソー株式会社
バイオサイエンス事業部

東京本社営業部 ☎(03)5427-5180 〒105-8623 東京都港区芝3-8-2
大阪支店 バイオサイエンスG ☎(06)6209-1948 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4-4-9
名古屋支店 バイオサイエンスG ☎(052)211-5730 〒460-0008 名古屋市中区栄1-2-7
福岡支店 ☎(092)781-0481 〒810-0001 福岡市中央区天神1-13-2
仙台支店 ☎(022)266-2341 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-1
カスタマーサポートセンター ☎(0467)76-5384 〒252-1123 神奈川県綾瀬市早川2743-1
バイオサイエンス事業部ホームページ <https://www.separations.asia.tosohbioscience.com/>

ビーエルテックの自動化学分析装置

BLTEC 新型オートアナライザー「MiSSion」 ふっ素 シアン フェノール類 全窒素 全りん

- 1 新開発の光学系により測定レンジが広がりました。
- 2 原理は、気泡分節型連続流れ分析法（CFA）で計量証明機関で多くの実績があります。
- 3 ふっ素、シアン、フェノール類の蒸留、発色操作も自動で行えます。
- 4 全窒素全りんのオートクレーブ分解、発色操作も自動で行えます。
- 5 自動洗浄装置装着時、オートスタート機能、自動プラテンリリースできます。
- 6 国内生産です。
- 7 JISK0102、環境省告示対応メソッドです。 1時間20検体測定ができます。



MiSSion-ふっ素シアン



MiSSion-全窒素全りん

全自動酸化分解前処理装置 DEENAシリーズ

特長

1. 試薬を自動で導入できます。
2. 自動で加熱をします。
3. 内部標準も入れられます（オプション）
4. メスアップも自動で行います。



DEENA60
(50mlバイアル 60本掛け)

連続流れ分析法（CFA法）を用いた、酸添加加熱分解装置AATM（アトム）

特長

1. 液体サンプルは、酸と混合、加熱しICP-MSへそのまま導入され測定されます。
2. 気泡分節のCFA法を利用した装置です。
3. 土壌汚染関連、排水、飲料水など全自動で測定できます。



ビーエルテック株式会社 <http://www.bl-tec.co.jp>

本 社 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-25-7 江戸堀ヤタニビル2F
TEL: 06-6445-2332 FAX: 06-6445-2437

東京本社 〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町14-15 マツモトビル4F
TEL: 03-5847-0252 FAX: 03-5847-0255

九州支店 〒811-3311 福津市宮司浜1-16-10-101
TEL: 0940-52-7770 ※FAXは本社へ



メトローム イオンクロマトグラフ



930 IC 本体



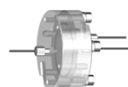
858 サンプルプロセッサ
+ 800 ドジーノ (電動ビュレット)



940 IC 本体



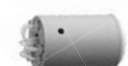
942 拡張モジュール



ろ過デバイス
限外ろ過



透析デバイス
ダイアリシス



中和・除去デバイス
中和 / 金属除去



濃縮・除去デバイス
濃縮 / カラムスイッチング
/ マトリックス除去

メトローム 自動前処理システム Metrohm Inline Sample Preparation (MISP) は、手作業でおこなっていたイオンクロマトグラフのサンプル前処理を完全自動化できます。

MISP は、メトローム開発したイオン分析のための自動前処理手法です。マトリックスの除去、濃縮、希釈、pH 調整、中和等の作業と時間のかかる作業を完全自動化します。前処理工程を改善するとともに、分析精度の向上にも有効です。

イオンクロマトグラフィの原理からトラブルまでご隠居さん達が楽しく解説する大人気コラム「ご隠居達のIC四方山話(よもやまばなし)」。ウェブサイトに掲載中！

IC 四方山話



デモやサンプルテストもお気軽にお問い合わせください。
e-mail でのお問い合わせ: metrohm.jp@metrohm.jp

本社 〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町30-1 タマビル日本橋箱崎8階 TEL: 03-5642-6146 (TI部) FAX: 03-5642-6142
大阪支店 〒541-0047 大阪府大阪市中央区淡路町3-1-9 淡路町ダイビル5階502C TEL: 06-6232-2311 FAX: 06-6232-2312
URL <https://www.metrohm.com/ja-jp/>

水銀規制に関する対応はできていますか？

サステナビリティに貢献

超純水・純水製造装置

Milli-Q IQ 7003/05/10/15

純水製造装置

Milli-Q IX 7003/05/10/15

水銀フリーUVランプ



- 水銀に関する規制に対応
- 19%の施設（民間企業・大学・公的研究機関）では水銀を含む製品は購入できず、47%の施設では水銀を含まない製品を選ぶようにする対応が取られています。

最大30%省エネ

- 最大30%のエネルギー削減*（Milli-Q IX 7003/05/10/15）
（製品ライフサイクル全体で500 kWh以上）

使用水量削減

- RO膜洗浄水量を80%削減*
- RO排水リサイクルにより、使用水量の大幅削減

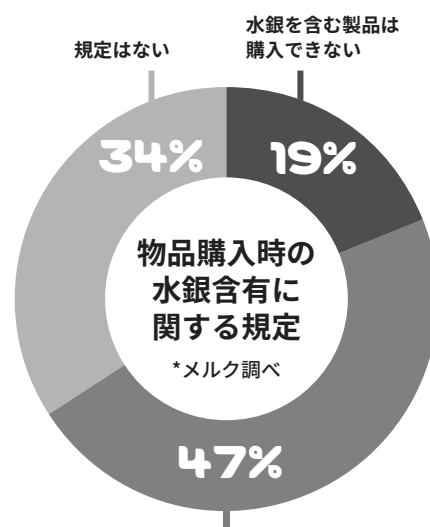
化学物質の使用・廃棄ゼロ

- イオン交換樹脂再生のための危険な化学薬品による再生と廃棄物を排除。Elix® EDIテクノロジーは、微弱な電気によりイオン交換樹脂を再生。

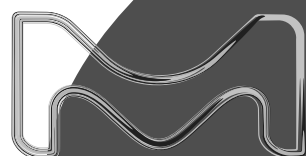
*前モデルElixとの比較

メルク株式会社

ライフサイエンス ラボウォーター事業部
〒153-8927 東京都目黒区下目黒 1-8-1 アルコタワー 5F
製品の最新情報はこちら www.merckmillipore.com/LW
On-Line: www.merckmillipore.jp/jpts
Tel: 03-4531-3939 Fax: 03-5434-4875



水銀を含まない製品をなるべく選ぶようにする必要があります



The life science business
of Merck operates as
MilliporeSigma in the
U.S. and Canada.



Milli-Q®

Lab Water Solutions

X線技術で環境分析をサポート！

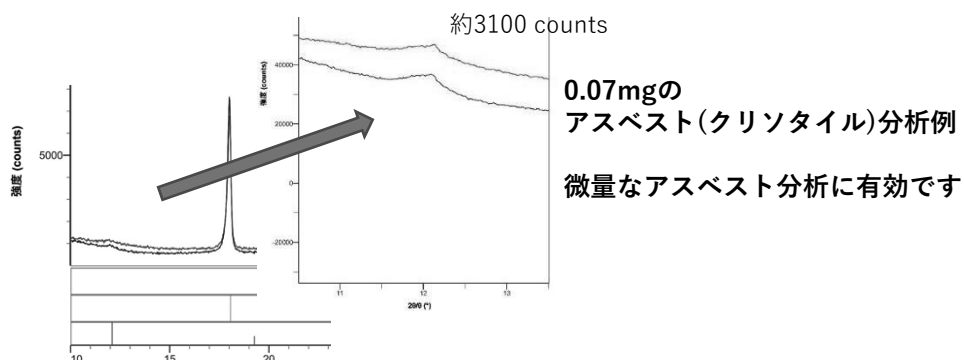
－アスベスト・微量元素の測定に－

全自動多目的X線回折装置 SmartLab SE



測定対象例：アスベスト、無機化合物全般

- JIS A 1481「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」の測定条件に則った測定が可能
- オートサンプラーと高速1次元検出器素搭載による多検体高速測定

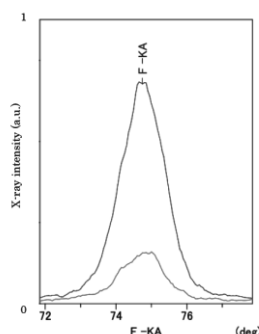


卓上型波長分散蛍光X線装置 Supermini200



測定対象例：土壤中の環境規制元素
無機金属全般

- O～Uまでの主成分%～微量ppmオーダー分析
- 試料の酸分解、溶解など前処理不要
- 卓上型で省スペース
- ICやICP前のスクリーニング分析に使用可能



F 濃度	500ppm	100ppm
分析値(ppm)	592	142

液中フッ素のろ紙分析例
%～ppmオーダーのフッ素分析が可能です

【販売元】

株式会社 **リガク**
Rigaku

〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷4-14-4
E-mail: tky-www@rigaku.co.jp
TEL 03-3479-6011 FAX 03-3479-6171

